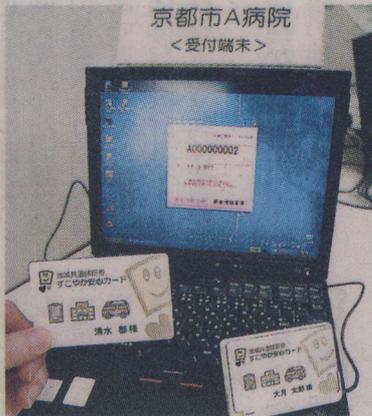


# 診察券 地域で共通に



1枚で複数の医療機関を受診できる「地域共通診察券」(写真手前)。病院の端末にかざすと、病院固有の受付番号が表示される

## 京都市など4市町

1枚の診察券で複数の医療機関を受診できる「地域共通診察券サービス」が、国立病院機構京都医療センター(京都市伏見区)を中心に京都、宇治、城陽、久御山の4市町で始まる。患者の「たらい回し」を防ぐ。全国的にも珍しい試みという。

NPO法人「日本サステイナブル・コミュニティ・センター」(SCCJ、上京区)が総務省の委託で実証実験として実施。通信や医療情報管理関連企業が技術提供する。

術提供する。

非接触型ICカードの共通診察券には最大30医療機関を登録可。診察券を1枚に集約でき、過去の受診や処方薬情報がホストコンピュータに蓄積される。同じ検査の重複実施や同時服用が危険な薬の処方も防げる。

SCCJによると、1989年に府内に228カ所病院があったが2008年には177カ所に減少。診

## 受診、投薬歴をIC管理

診券の共通化で、磁気共鳴画像装置(MRI)など高度機器や手術室の空きなどを域内で一元管理、地域医療の質を高める狙いもある。現在、4市町の105医療機関と調剤薬局が参加を表明。初回分の診察券5万枚は今月下旬から無料で発行する。利用開始は2月以降の見込み。SCCJ顧問の北岡有喜・京都医療センター医療情報部長は「地域医療が抱える課題の解決につながるモデルとして、成果を全国に提示したい」としている。(西川邦臣)